



TITLE:

静脩 Vol. 44 No. 1 (2007.8) [全文]

AUTHOR(S):

---

CITATION:

静脩 Vol. 44 No. 1 (2007.8) [全文]. 静脩 2007, 44(1)

ISSUE DATE:

2007-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66056>

RIGHT:



## 学術情報基盤としての電子ジャーナルの安定的提供に向けて

京都大学図書館事務部長 長坂 みどり

### はじめに

平成20年から、京都大学が購読している雑誌のうち、全学提供することが図書館機構で了承されている外国雑誌について、冊子体主体の契約から電子ジャーナル主体の契約に移行することが部局長会議で決まりました。この件について、現状の報告をします。

冊子体雑誌の購読中止が続き、毎年繰り返し経費負担等の検討が続けられてきました。多くの冊子体雑誌の購読を中止しているのに、それでも購読経費の総額が上がっていくことをストップさせることができていません（図1）。ちなみに、京都大学では、この5年間で購読している冊子体雑誌の約25%が減少しています。

### 外国雑誌高騰

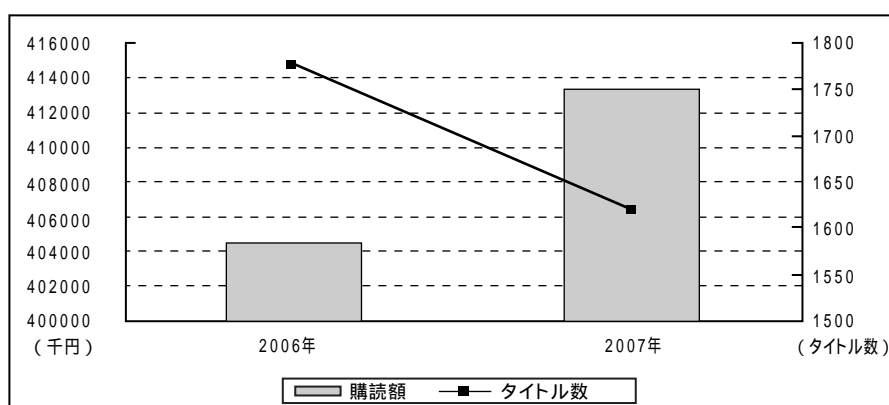
冊子体雑誌は毎年値上がりし、多くの部局で

### 京都大学の購読雑誌の現状

平成11年に図書館商議会で外国雑誌重複の見

図1：電子ジャーナル主体契約へ移行予定の外国雑誌  
2006年、2007年比較

155種減っても900万円価格上昇！



直しと電子ジャーナル等の積極的導入の必要性が確認され、電子ジャーナルが導入されました。現在、電子ジャーナルは発行されるタイトル数が増え、電子ジャーナルのみを出版する雑誌も出現しています。電子ジャーナルに慣れた利用者の中から、「京大で冊子体を購読しているのに電子ジャーナルが見られないのはおかしい」といった不満の声もあります。雑誌の発行や契約方法にはいくつかのパターンがあり、下の図は、京都大学で購読している雑誌の状態を大まかに示しています(図2)。

大きく3つに分けられます。

- (1) 電子ジャーナルと冊子体の購読が連動しており、全学提供している雑誌(A、B)
- (2) 電子ジャーナルも冊子体もあるが、部局独自の購読で、契約が全学導入となっていない雑誌(C)
- (3) 電子ジャーナルが無い雑誌(D)

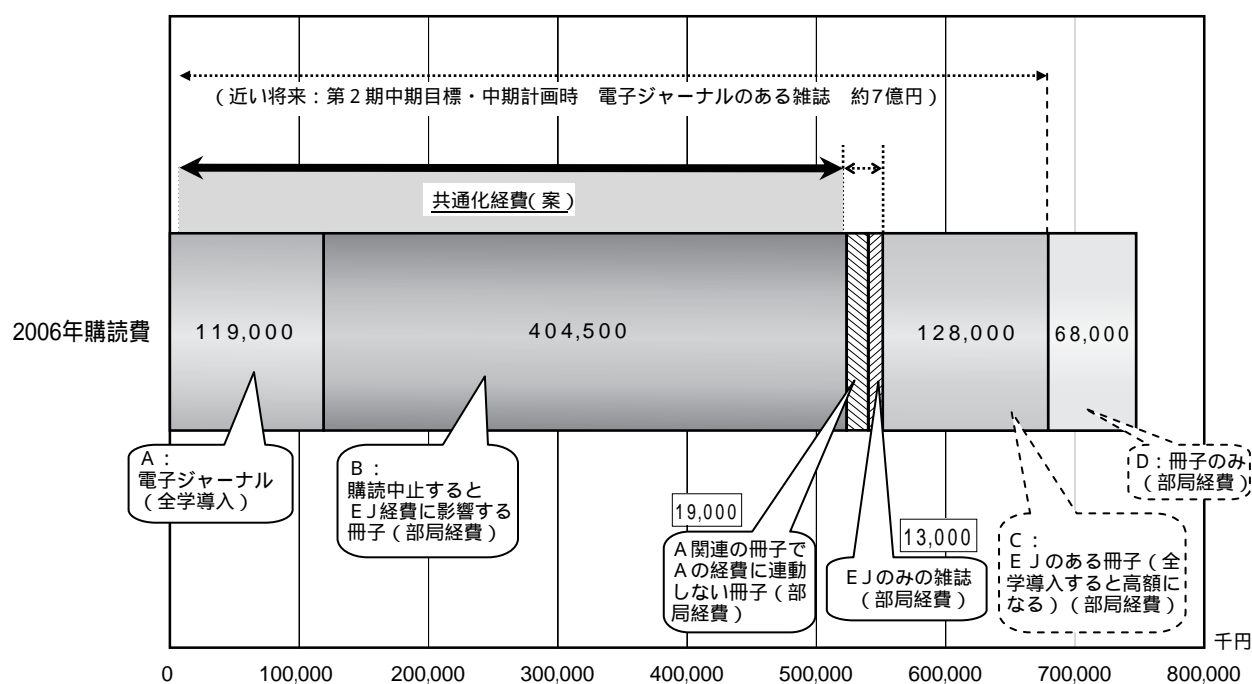
平成20年から電子ジャーナル主体に移行するのは、(1)の雑誌(A、B)です。

図書館機構では、従来から電子ジャーナルの取り扱いについて検討してきましたが、その値上がり分の経費負担の方策が主なテーマでした。昨年度から図書館機構に基盤強化経費が措置され、電子ジャーナル関連経費の一部も配分していただくようになりましたが、根本的な対策を考えないと、上述したように冊子体を中止しても購読総額は減らず、その上電子ジャーナル経費が増額となる悪循環を断ち切ることができない状況となってきました。

#### 図書館協議会における検討状況

平成18年度を通して、図書館機構では、電子ジャーナルを主体とする契約に移行することの是非、方策について検討を重ねてきました。全部局の意向調査を実施し、いろいろ試算も繰り

図2. 外国雑誌(電子、冊子)購読状況 2006年



返しました。

平成18年度当初は、電子ジャーナル主体に移行してもこれまでとあまり変化がないように、冊子体の購読を従来のまま継続する案が支持されていました。平成18年度末の検討結果では、現在冊子体を購読している雑誌については、京都大学に1部は冊子体を維持することになりました。しかし、経費分担について意見が分かれたうえ、経費問題については部局長会議の審議事項であるので、図書館機構の原案を部局長会議で、ご審議頂くことになりました。

### 部局長会議における審議状況

その結果、平成19年7月11日の部局長会議で、電子ジャーナルは時代の流れ、学術情報基盤であり、その整備・充実・強化は教育・研究のライフラインとして京都大学として実現することが早急の課題であるという共通認識の下に、「冊子体雑誌の購読維持が困難である現状では電子ジャーナル主体契約への移行は仕方がない。大学として全学提供する前述(1)の電子ジャーナルについての経費は図書館機構の共通化経費とする。ただし、冊子体の購読については、必要な部局の独自の判断・経費とすること」が了承されました。部局によって、冊子を継続したいところ、全学に冊子が1部しかないのではやむをえず購読継続しているができれば中止したい部局等、事情が異なるためです。こうして、

学術情報基盤として冊子体と電子ジャーナルが連動する全学提供の雑誌については、電子ジャーナル主体契約に移行し、その経費を図書館機構の共通化経費とする。

冊子体の購読については、部局の独自裁量とする。

の2点が部局長会議で承認され、速やかに平成20年の電子ジャーナル主体契約の準備に取りかかることになりました。平成20年から移行するためには本年7月中に部局の調査を終了し、契約事務の準備を開始する必要がある、附属図書

館に設置された外国雑誌業務センターにおいて準備を開始しています。なお電子ジャーナル主体契約に関連する雑誌の冊子体購読は、部局で独自にご判断いただきますが、電子ジャーナルと連動して購読することで値引きが可能になる場合も多くあります。この契約についても外国雑誌業務センターにおいて購読予約のとりまとめを行い、割引価格が適用されるよう手続きを進める予定です。

また、電子ジャーナル主体契約にかかる経費負担のあり方について、図書館機構からは全学提供の電子ジャーナルは大学の学術情報基盤であり、なんらかの全学的な経費の措置と、充実強化のための経費を強く要望しています。

### 部局長会議電子ジャーナルWGの設置

部局の経費分担については、旧来の部局と新規に創設された部局の差異、分野による利用の差異等によって、不公平感が生じるなど、検討すべき要因が多々あります。このため、総長から部局長会議に電子ジャーナルWGを設置し実現可能で有効な案を作成するように指示があり、財務委員会と図書館機構から各3名のメンバーを選出、それぞれの担当理事を交えて検討が開始されるということです。

図書館機構では、電子ジャーナル主体契約に移行することで、約9000タイトルの雑誌が安定的に提供でき、3千数百万円の経費節減が期待できると試算しています。

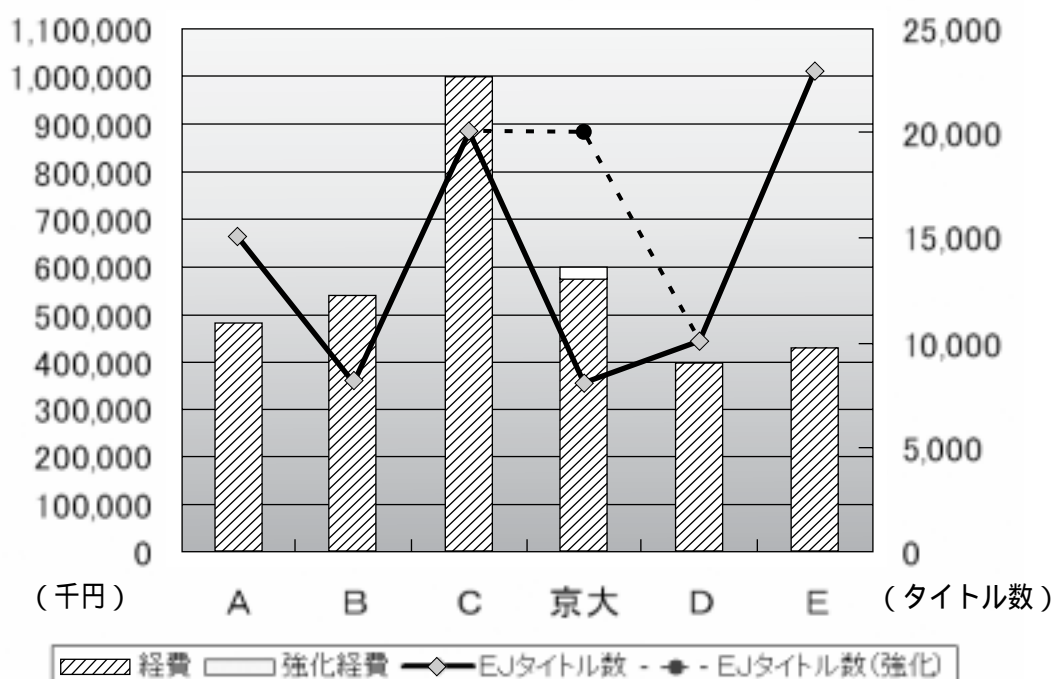
また、全学的な立場で出版社と契約交渉することで交渉力も強まり、比較的安価な追加経費支出によって大幅なタイトル増も期待でき、図書館機構としては、現在、2万タイトル水準への電子ジャーナルの充実・強化策を提案しています(図3)。

### 終わりに

電子ジャーナルの強化に疑問や不要の意見を投げかけられる向きもありますが、京都大学の現状は決して十分なものとは言えません。世界的レベルの大学と肩を並べていくために、京都大学の学

図3．国内他大学電子ジャーナル及び関連冊子比較

2007年5月



生・教員の皆様に豊かな情報をいつでもどこからでもご利用いただける環境を整備・提供することが図書館の使命だと考えております。

なお、図書館機構では、「京都大学図書館機構の基本理念と目標」を平成19年4月に策定しました。電子ジャーナルの整備・充実・強化は、目標(2)「学術情報基盤としてのコレクション

および情報サービス体制を構築するために、学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、それらへの最善のアクセスを提供する」一環として取り組んでおります。

皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

(ながさか みどり)

京都大学の非購読誌に対する論文掲載の現状 (2004年)

掲載状況の例 Elsevier社

	購読誌に掲載された論文	非購読誌に掲載された論文	合 計	非購読誌の割合
論文数	1,043	421	1,464	28.8%
掲載雑誌種	241	172	413	41.6%

電子ジャーナルにアクセスできる環境は、非購読誌の利用のみならず、研究成果の発信の場・雑誌の選択幅を広げている。

電子ジャーナルは教育・研究のライフライン (利用例)

・E社 電子ジャーナル利用可能タイトル約1800種 (2006年)  
内訳: 購読誌 547種  
非購読誌 約1250種

・E社電子ジャーナル利用数 (2006年)



## 京都大学図書館機構ミッションの策定

平成18年8月に「図書館機構将来構想検討会」が設置され、京都大学図書館機構の将来構想の検討を開始しています。同時に将来構想の根幹となるミッションについて、図書館協議会のメンバーからなる「図書館ミッション検討ワーキング」で検討していただきました。

「京都大学図書館機構の基本理念と目標」(案)

が作成され平成19年3月図書館協議会で承認、4月には役員懇談会・役員会と部局長会議にも報告され了承されました。

「京都大学図書館機構の基本理念と目標」を構成員の皆様にご理解いただき、目標の実現をめざします。

### 京都大学図書館機構の基本理念と目標

京都大学図書館機構は、京都大学の基本理念に基づき、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。

そのため、京都大学図書館機構は以下の目標の実現をめざす。

- (1) 京都大学図書館機構は、全学の図書館機能を十全に発揮して教育・研究を支援するために、学生・教職員のニーズを把握し、それに応えることを最優先する。
- (2) 学術情報基盤としてのコレクションおよび情報サービス体制を構築するために、学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、それらへの最善のアクセスを提供する。
- (3) 京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う。
- (4) 京都大学が保有する人類の知的資産を将来にわたって利用できるような保存管理体制を整備する。
- (5) 学術情報活用のために質の高い利用者支援システムを構築する。
- (6) 図書館利用者が学術情報を有効かつ快適に活用できるように、全ての図書館スタッフのスキルおよびモチベーションの向上と、設備、施設の充実を図る。
- (7) 京都大学図書館機構を構成する組織は、相互に、また関連する学内組織との間の協力関係を強化する。
- (8) 国内外の図書館と連携し、相互協力するとともに、地域・社会に貢献する。

< 一冊の本シリーズ 6 >

## 二枚の絵

農学研究科教授 松村 康生

幼い頃から、からっきし絵心というものがなかったにもかかわらず、長ずるに連れて絵画鑑賞を楽しみとするようになった。海外に出かけても、たとえばロンドンで出発便まで数時間がある場合には、テートギャラリーやナショナルギャラリーに駆けつけるなど、なるべく本物の名画に出会いたいと考えている。しかし、普段の生活においては、京都は各種展覧会が多く開催されるにもかかわらず、そのような催し物に出かけてゆく余裕がほとんどない。せっかく前売り券を買っていても、展覧会が終わった後で行っていないことに気づいたり、最終日直前になって日程のやり繰りがつかず、誰かに前売り券をあげてしまうといったことになりがちである。そのような私にとって、1995年4月から1998年3月まで、毎日新聞日曜版で連載された「二枚の絵」シリーズは、家庭に居ながら名画の世界に遊ぶことのできる、貴重な時間を与えてくれる好企画であった。連載は150回に及んだが、その中からとりあえず三分の一に当たる50組が選出され編集作業の後、2000年5月に毎日新聞社から「二枚の絵」として出版された。

「二枚の絵」は、様々な選者に、古今東西の絵画の中から2点を選び出してもらい、それを並べて論じてもらうという企画である。選者は比較的美術関係者が多いものの、それ以外の職業・専門の人達も選ばれており（特に紙上連載時には、美術関係者以外の割合が高かったような記憶がある）、二枚の絵を選ぶ基準や論点にも特に制約は加えられていなかったようである。構成としては、まず選者の文章

があり、その後に二枚の絵が見開き両ページ左右に見事なカラー印刷で掲載されている。その次のページに、それぞれの絵についての美術館・博物館のスタッフや大学教員などの専門家による解説が続き、一組の企画が完成されるという構成になっている。

ただ一枚の絵をぼんやりと眺めていても、それなりの興趣は湧くものであるが、関連する二枚の絵を並べてみると、それらの絵画に対する理解や思いが、より重層的・多面的となる。例えば、イラストレーターの和田誠氏が選んだ、歌川国芳の「としよりのよふな若い人だ」（1847年頃）とジュゼッペ・アルチンボルドの「四季：夏」（1563年）という二枚をとりあげて見る。国芳の絵は、裸の男達の体を何人も合成して女の顔や手を描き出すという奇妙なものであり、国芳にはこの種の絵が何枚もあるらしい。一方、アルチンボルドの絵では、女性の顔のパーツや髪、衣服、飾り物など全てが夏の植物で構成されている（例えば茄子のような植物で鼻が、またチェリーで眼球が表現されている）。文章では十分表現できないので、是非とも図録や全集などで見ていただきたいと思うが、両方の絵とも一見して、その奇想天外さにあきれてしまう。実は国芳は西洋画をよく見ていたらしく、アルチンボルドの絵にヒントを得た可能性も否定できない。その真偽はともかくとして、人の顔の中に人体や物を見出し、それを見事な技術で造形してしまうという「けったいな」感性と奇妙な情熱を持った二人の芸術家が、時間と地域を隔てて出現した事実、人間や芸

術というものの不思議さ、おもしろさを感じてしまう。

この例のように、時空や様式を越えて、類似した感性を持つ異才が出現するという発見も「二枚の絵」の楽しみであるが、同様の題材を扱いながら東西の様式や芸術感の違いを際立たせるという、より正統的な二枚の絵の組合せ方も、大いに興趣をそそるものである。例えば、高階秀爾氏によって行われた、二枚の宮中画、ベラスケス「女官たち（ラス・メニーナス）」（1656年頃）と「源氏物語絵巻：宿木一」（12世紀前半）の比較はその最たるものであろう。前者が、遠近法や明暗法に基づいた三次元世界の完璧な幻影化であり、画家が不動の視点を獲得していなければならないのに対し、後者では画家の視点は一箇所に固定されることがない。すなわち、宮中の室内を上から見下ろすような視点で描きながら、登場人物の間近にせまったり、碁石入れを真横から眺めたりする。このような比較によって、私達は西洋画と日本画（あるいは東洋画）の技法や世界観の違いを、より明確に理解することができるのである。

そのほか、二枚の絵の比較から東西交流という側面を指摘したり、同じ画家の時代による画風の変遷を検討したり、師匠と弟子の関連性を追求したりなど、興味深い様々なアプローチを、この1冊の本で楽しむことができる。また、「このような選者が、なぜこのような絵を」と考えてみるのもおもしろく、例えば現代社会の地獄を描き続けている作家の高村薫氏が、入江波光の「彼岸」（1920年）とヒエロニムス・ボス「快樂の園（祭壇画の中央パネル）」（1503-4年）を取り上げて、「両方の絵ともなんと楽しげだ」と語っているのは、どういう心境からだろうと考えてしまう。

以上のように二枚の絵が並べられ比較されることによって、私達の思考は様々な地域や時代へと一気に広がり、想像力や知識欲を大いに刺激されることになる。このようないわゆる‘知的な遊び’をすることは、単に趣味の幅を広げるだけでなく、物事を広い視点から柔軟な態度で眺めることのできる、豊かな精神を涵養する上で大いにプラスになると思うのであるが、いかがであろうか？このような‘知的な遊び’はもちろん美術に限ったことではない。例えば文学では、若い人達を中心に人気を集めている村上春樹氏の「海辺のカフカ」を考えてみると、主人公のカフカ少年の置かれた境遇は、まさにギリシャ悲劇のオイディプス王のそれであり、村上氏がなぜこの古典の設定を自分の小説に持ち込んだのか、あれこれ想像してみることは楽しい。そもそもなぜ主人公の名前がカフカなのか、同名の作家の作品の不条理な世界を思い浮かべることにも必要かもしれない。読者はこのように一つの小説から、時空を越えて過去の文学世界へ誘われることによって、その精神世界をより豊かなものにすることができるのである。

最近大学では学生も教員スタッフも、目の前にあることばかりに捕われがちで、‘知的な遊び’を楽しむ余裕がないように見受けられる。しかし、広い視点を身につけ、柔軟な精神を養うことは、研究面でも、教育面でも、また社会との関わりという側面においても、決して無駄にはならないと思う。幸い、京都大学には、数多くの古典から現代資料に至るまで知的遺産が豊富に存在し、学識溢れる先生方も多数おられる。その気になりさえすれば、様々な‘知的な遊び’を楽しむ機会は私達の前にいつも開かれているのである。

（まつむら やすき）



## 学内デリバリー・サービス( 現物貸借 )がさらに便利になりました!

### より早く、より広範囲に

図書館機構では、平成19年7月より利用者に時間的、経費的負担をかけない新配送サービスを開始しました。この新サービスは、本部地区・桂地区・宇治地区3地区を結ぶ配送業者によるルート便(図書専用便)と、それ以外の遠隔地間を直送で結ぶ宅配便の組み合わせで学内の部局・施設を網羅する図書専用配送サービスです。これにより、平成18年3月から開始した従来の学内便による遠隔地間の学内デリバリー・サービス(「静脩」Vol.43, No.1, p.9を参照)はさらに拡充し、これまで配送できなかった地区とも利用者が貸借を希望する図書の配送が可能となりました。

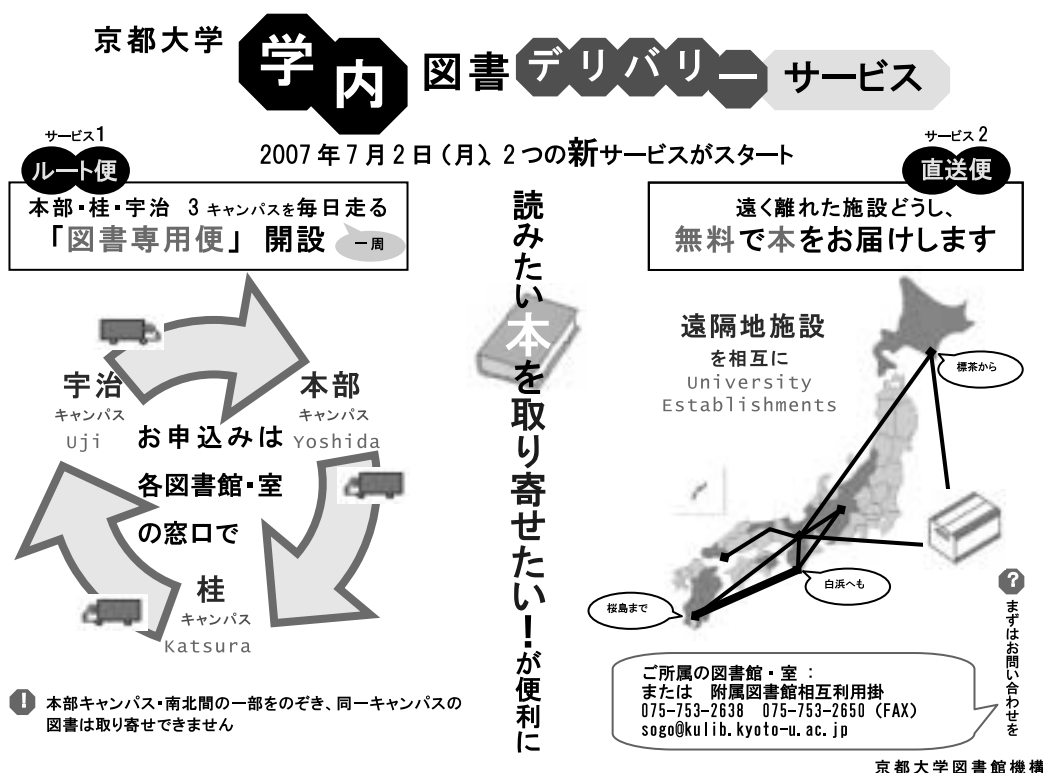
このサービスは本年度の総長裁量経費の配分を受け図書館機構で学内図書館・室間を直接結ぶ図書専用便を導入した図書配送基盤の整備として実現しました。

運用開始までの準備は、業務改善を検討してきた図書館サービス部会と附属図書館情報サービス課相互利用掛の協働で、配送ルートや配送手順の整備、配送容器の決定、広報用ポスター・チラシの作成等を行い、7月から新配送サービスの運用を開始しました。利用者は希望する図書を迅速かつ無料で取り寄せることが可能になりました。ただし部局・施設各々事情が異なり、サービスを利用できないところもあるため、図書館機構HP等で先方の条件を確認のうえ依頼することが必要です。

今後、この新配送サービスを図書館の物流を支える基盤とし、利用者への新たなサービス展開や図書業務全般にかかる多面的な業務展開へと発展させていきます。

(業務改善検討委員会図書館サービス部会)

(附属図書館情報サービス課相互利用掛)



# 人間・環境学研究科総合人間学部図書館の紹介

## 西日本で一番古い大学図書館

人間・環境学研究科総合人間学部図書館(以下、人環・総人図書館)は、人間・環境学研究科及び総合人間学部の図書館であるとともに、全学共通科目にも対応した図書館として、全学の学生・教職員にサービスを行っています。

人環・総人図書館の蔵書は京都大学の歴史と深く関わっています。京都大学の祖のひとつである第三高等学校の蔵書約8万冊を引き継いでおり、これらの蔵書には同校の更に前身である舎密局(1869年)や大阪開成所(1870年)などの貴重な資料も含まれます。以来、京都大学分校

京都大学教養部 京都大学総合人間学部と拡充され、現在約65万冊(研究室配置分を含む)の蔵書を有する大規模図書館となっています。



### 1. 館内の紹介

現在の建物は1973(昭和48)年に竣工しました。地上2階、地下1階(積層式書庫で実質上2階)で、年間約16万5千人に利用され、約7万5千冊を貸出しています。(平成18年度実績)

#### 1Fフロア

参考図書や新着雑誌とともに約7万4千冊の図書を自由に手にとって利用できます。

新刊の学習図書、一般教養書が並ぶ開架書架



のほか、充実した新書コーナーがあります。

また、視聴覚室では当館所蔵の映画やドキュメンタリー、語学関係のAV資料が利用できます。なお、AV資料の利用は館内に限られます。持込資料の利用はできません。

#### 地階フロア

第三高等学校、教養部から引き継いだ資料や雑誌、新聞のバックナンバーを配架しています。カウンターで手続きをして入庫できます。

#### 2Fフロア



自習のための席(280席)が設けてあります。また、端末コーナーには学術情報メディアセンターのオープンスペースラボとして28台のパソコンを用意しています。なお、利用に当たってはメディアセンターのIDが必要です。

## 2. 貴重資料

前述のとおり、人環・総人図書館はその前身である舎密局の時代から数えると、すでに140年近い歴史を持っています。第三高等学校から引き継がれた蔵書8万冊は、全体として日本が近代化の過程を歩む中でどのような図書を使って人材育成を行ったか、近代エリート教育の実、足跡が窺える歴史的資料群でもあります。

これら貴重な資料を多く所蔵しているにもかかわらず、これまで貴重資料の指定や取扱いについて、明確な基準がありませんでした。そこで平成18年度に「京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館貴重資料の指定及び取扱い要項」を制定しました。またこの制定に併せ、貴重資料指定のための第一弾として、人間・環境学研究科の松浦茂教授により漢籍の調査が行われました。その結果、今年度新たに23点の漢籍が貴重資料に指定されています。

## 3. コレクション

### 林文庫

第三高等学校の国語教授であった林森太郎（在任期間 明治32年～昭和2年）の旧蔵書です。国文学関係の和書（88点）が所蔵されています。

### 溝淵文庫

第三高等学校長であった溝淵進馬（1870～1935）の旧蔵書です。母校出身者最初の校長として、昭和6年から同10年まで在任。教育、哲学関係の和・洋図書（1,224点）が所蔵されています。

### 青島守備軍司令部資料

第一次世界大戦中、ドイツの租借地であった青島から旧日本軍によって鹵獲された資料です。第三高等学校に寄贈分配された図書（405冊）が所蔵されています。学内では他に京都帝国大学への寄贈分が附属図書館に所蔵されています。

### 近代教育掛図資料

第三高等学校旧蔵の教育掛図（211点）です。戦前まで実際に使用されてきたものです。その

内容は地形図、地質図、作戦図、動植物図、古生物図、周期律表、有職故実図、年表、解剖図など、多岐に渡っています。これら掛図は「京都大学所蔵近代教育掛図展」（平成18年度）として京都大学総合博物館で展示され、現在高精細画像を京都大学附属図書館電子図書館で公開しています。

なお、第三高等学校に関する行政資料、写真等は平成16年度に京都大学文書館へ移管されました。整理が終わり次第、順次公開される予定です。

## 4. 今後の整備計画について

### 1) 総合館南棟書庫の拡充

現在、吉田南総合館南棟・西棟は耐震工事を行っています。これに併せて、南棟地下書庫を拡充することになりました。従来の書庫、A27号室に隣接するA24号室を統合するほか、ボイラー室を撤去した跡に電動集密書架を設置し、20万冊収容規模の書庫が誕生します。この拡充によって、旧教養部からの改組以来、各研究室に分散していた資料の大半が図書館に収納され、より利用しやすくなります。

### 2) 大学院人間・環境学研究科棟1F図書館分室の整備

上記の吉田南総合館の耐震工事に伴い、大学院人間・環境学研究科棟1Fにあった図書館分室を一時閉室します。なお、分室で所蔵されていた資料は本館に統合されますが、1F閲覧室は平成20年度、グループ学習室として生まれ変わる予定です。

### 3) 視聴覚室の拡充

A V資料の利用が多い視聴覚室ですが、手狭で機器の更新が遅れていることから、改善を要望しています。平成21年度の「教育環境改善事業にかかる事業計画」により、視聴覚室の拡張と設置機器類、個人ブースなどの増加と整備が予定されています。

（人間・環境学研究科総合人間学部図書館学術情報掛）

## 「資料保存課」訪問調査 University of Kentucky Libraries in USA

附属図書館情報サービス課参考調査掛 天野 絵里子

経済学研究科・経済学部図書室閲覧掛 山田 裕子

附属図書館情報サービス課資料運用掛 山本 千恵

### はじめに

アメリカの多くの大学図書館には資料保存課があり、資料保存の管理者や保存・修復の専門家であるコンサーバタが配置されている。平成19年3月19日から25日まで、京都大学図書館の資料保存活動の参考とするため、ケンタッキー州立大学図書館（以降UKL）の資料保存課への訪問調査の機会を得ることができた。京都大学の図書館・室で発生しているカビ対策や書庫狭隘化の問題に応える施策、普段からの修理修復にいかせるポイント、資料保存活動の一環として、京都大学でも検討すべき課題や解決策につながるUKLの活動を紹介する。



中央図書館（W. T Young Library）

施。こうした長期的な環境調査は問題発生時の原因究明のためにも役立つ。またそれぞれの図書館の職員と連絡を取り、適切な環境を維持できるよう話し合い、観察を続けている。このことは環境調査や自館の図書館施設を知ることの必要性を意識させるなど保存教育を進めることにもつながっている。

収集したデータは分析ソフト（「Climate Notebook」Image Permanence Institute）を用いて、温湿度記録のグラフ化だけでなくカビ発生危険数値を視覚化し、報告書を作成。資料は環境整備の指導教育や、施設整備の予算獲得のために使われている。

### 保存書庫

保存書庫として借りている倉庫（Kentucky Underground Storage Inc. 「KUSI」）を訪問した。図書館の狭隘化対策、資料の長期保存を目的に、このような倉庫が利用されている。使用頻度の低いオンライン化された雑誌や参考資料などが倉庫に送られ、選別番号をつけて箱に入れられ、格納される。図書館の資料だけでなく文書館のアーカイブ資料など、大学のあらゆる資料が保管対象だ。ケンタッキー州立大学の資料は、現在約9,300m<sup>3</sup>、17,232箱（40万冊）。年間1,700箱が倉庫に保管されていく。

驚きであったのはこの倉庫が洞窟を利用しているということだ。ケンタッキーは石灰石の産地で、採掘でできた洞窟がたくさんある。洞窟の利点は温湿度の変動が少なく、環境が一定であることだ。建物をたてる必要もなく、スベ

### 環境調査 - 長期的環境計測

日本で資料保存といえば「補修や修理」が想起されるが、それだけではない。UKLでは資料劣化の「予防」についての取り組みがいくつもなされている。そのひとつに長期的な書庫の環境調査がある。コンサーバタが、カビが生えたことのある書庫だけでなく、いくつかの書庫にデータロガー（温湿度等測定器）の設置をし、定期的及び、長期（少なくとも一年間）のデータ蓄積を行い、適した環境かどうかの調査を実

ースの確保も容易である。湿度が多少高いことが危惧されるが、巨大な除湿機を入れて最適環境を保っている。洞窟倉庫のすばらしさを証明するように、ミイラ化したこうもりが案内者の手に乗っていた。

もちろんこの洞窟倉庫の資料は利用が可能だ。年に3,000から4,000件ほどの請求に応え、キャンパスへの配送がおこなわれている。

### 修理 - 簡単なものから

資料の修理に関して最も印象に残ったことは、業務を効率的に行うための工夫が随所に見られたことである。ワークフローの確立、分業の徹底、修理専用スペースの確保、全学の職員や学生に対する資料保存教育など、挙げればきりがない。資料保存課というセクションを作って全学の資料の修理に関する責任を一箇所に集中させるという考え方自体、効率を重視したものといえる。

しかし、日本の他の国立大学と同じように、京都大学には資料保存を専門的に行う部署がない。専門的な知識を持つ図書館員も、修理のみ恒常的に行う学生アルバイトもいない。システムを整備することなく業務の効率を上げるにも限界があるが、現状でも採用できそうなアイデアを2つ挙げる。

#### ・「資料修理マニュアル」

ボリュームはA4用紙50枚程度で、業務に携わる者の知識の共有が作成の目的である。作業の流れ、資料の修理方法、修理のための道具や材料などについて事細かく説明されているので、修理に関して専門的な知識を持たない者でも迷わず作業を進めることができる。

#### ・「修理票 ( Repair Slip )」

修理票は、5 × 30cm くらいの紙に「Dry Clean」「Mend Pages」「Hinge Tightening」などの修理項目をびっしりと書き連ねたものであり、項目の上から順に処置を施せば正しく修理ができるように構成されている。施すべき修理項目に

責任者がチェックを入れ、資料に挟む。修理が完了したら責任者が修理票と



本に挟まれているのが修理票  
照らし合わせて確認する。

### 図書館製本

日本で図書館製本というと雑誌の合冊製本がほとんどだが、アメリカでは新品のソフトカバーの図書や、教科書等頻繁に利用することがわかっている資料、軽微な破損資料でも製本業者に出す。発注は全学一括かつ年間契約で、UKLでは1冊あたり10ドル以下とコストを抑えている。図書館製本に適した資材と方法はANSI(米国規格協会)によって定められ、全米各地に規格を遵守する製本業者があり、UKLでも活用している。

京都大学では図書館ごとにその都度別々の業者に発注しており、料金は約2,000円/冊、軽微な破損資料は職員が見よう見真似で修理しているか、または単に放置するしかない状況だ。

### 災害対策

UKLには充実した災害対策計画書( Disaster Planning )がある。全図書館分の計画書及び各図書館のものがあり、それぞれに責任者の連絡先、見取り図、資料救出の優先順位、水濡れ時の冷凍保管庫等関連業者の連絡先が詳細にまとめられている。また、実際に水濡れ、カビ被害、火災等が起こったときの資料への措置も記されている。計画書に沿って必要な物品はすでに購入し、所定の場所に設置している。災害対策は、各図書館で独自に立案し実行するより、資料保存に責任をもつ部署がリーダーシップをとっておこなう方が効果を高めるとのことであった。

## 組織体制とマネージメント

資料保存課(Preservation)は、特殊資料・電子化プログラム(Special Collections & Digital Programs)の下位部門である。コンサベータである日沖和子氏は、他の図書館員同様、図書館学の修士号を持っているだけでなく、資料保存に関する専門教育を受け、他機関での実務経験も豊富である。アメリカの大学では、図書館はもちろんのこと、事務部門でも専任スタッフは修士号以上の学位を持つものが多く、ポストごとに職員を随時採用しており、配置転換はない。ポストに合わせた高い専門性を持ったスタッフの確保を可能にしている。

UKLの資料保存課では、その他の常勤スタッフや不規則の学生バイト(時給700円~)やボランティアが働いている。アメリカの大学はどの部署でもこのような学生バイトをよく活用しているが、人件費と業務の効率化、学生の雇用促進のためには合理的な制度である。

資料保存課の長であるBecky Ryder氏によれば、図書館における資料保存とは、資料をできるだけ長く利用できる状態にする長期的な業務全般を指すとのことである。資料の劣化防止、災害対策、修理や、マイクロフィルムやデジタルデータへのフォーマット変換、そして資料の取替えといった一連のサイクルがある。資料を傷めない、保存資料の優先順位を前もって定める等の原則を守りながら、今現在で資料に対しできる最適な処置をおこなうことが重要である。

また、資料保存は、専門の部署のみが専念するものではなく、資料の整理や貸出など、図書館のすべての部署と業務に関連しているので、他部署の教育も欠かせないとのことであった。

## 京大での資料保存

このような資料保存業務を実地に見聞すると、UKLより規模の大きい京都大学の図書館機構

においても、資料保存業務を確立することが重要であるとますます感じられるようになった。

(参考) 京都大学並みの500万冊以上の蔵書を持つ大学28校の資料保存に関する中央値

専門職員(コンサベータ等)	4.79 人
サポートスタッフ	12.28 人
資料保存費	\$ 1,190,663 (約1.4億円)
図書館総支出に占める資料保存費	2.92%
契約による図書館製本費	\$ 317,752 (約3,700万円)
図書館製本の冊数	36,515冊

ARL (Academic Research Libraries) Preservation Statistics  
2004-05, [http://www.arl.org/bm\\_doc/pres05.pdf](http://www.arl.org/bm_doc/pres05.pdf)

雑誌の受入など、図書館・室で重複する業務、スタッフの集中化が進められているが、そういった効率化の観点から考えても、また、共通の認識、原則、戦略がないため災害が起こった場合の損失を考えると、早急に資料保存についての組織・スタッフを整備し、予算措置を確立し、資料保存業務の実行につなげることが今後の図書館機構の中長期的な課題の一つと考える。

しかし、望ましい体制を早期に整備することは容易ではない。今すぐに環境調査、マニュアル作成や修理票を良かれと導入したところで、京都大学のような環境下ではそれらが持っている威力の半分も発揮できないかもしれない。それでもなお、私たちはできることから取り組み、京都大学全体の資料保存への関心を高めていきたいと考えている。

## 新しい施設・サービス

ここで資料保存から離れ、中央図書館(W. T. Young Library)の新しい施設"The Hub @ WT's"を紹介する。地下1階を改装した施設で、コンピュータはもちろん、グループや個人で利用できる机やホワイトボードを各所に配置、

サポート  
スタッフ  
が常駐す  
るヘルプ  
デスクが  
中央にあ  
る。自動  
販売機コ  
ーナーを



“ The Hub @ WT's ”

併設し、飲食可能である。

こういった施設・サービスは、Information CommonsやLearning Commonsなどと呼ばれ、アメリカの大学図書館で近年一般的になりつつあるものの一つである。本学でも研究個室やグループ学習室の拡充が望まれているが、「学習する場」である図書館のより積極的なアプローチとして、Learning Commonsのコンセプトは非常に参考になる。

## さいごに

今回の研修では、日沖氏やRyder氏の計らいにより、資料保存課のある中央図書館での現地実習を兼ねた研修だけでなく、様々な分野の図書館や文書館、大学の中に設置された印刷所、保存書庫等への訪問調査が叶った。さらにサービス部門におけるアメリカの大学図書館のとりくみの一端をも肌で感じることができた。UKLにて、われわれ自身が京都大学や図書館の紹介をするプレゼンテーションの機会を設けていただくなど、非常に勉強になる充実した研修であった。本当に心より感謝している。資料保存に関する海外研修を可能にくださった京都大学の取り組みに感謝するとともに、今後もこうした海外での先んじた実践に触れる機会が多く提供されることを期待する。

（あまの えりこ）

（やまだ ゆうこ）

（やまもと ちえ）

## 図書館システム更新に伴う障害のお詫び

平成19年4月に図書館システムの更新が行われました。更新にともない、蔵書検索や電子図書館などのサービスも新システムに移行しましたが、運用当初は機能障害、データの不具合等が多く、利用者の皆様には大変ご迷惑おかけしました。

また図書館業務システムも、従来のクライアント・サーバー型のシステムから、Web ベースシステムへの移行など、システム全体が大きく変わったこともあり、想定外の機能障害などが多数発生した結果、移行の遅延となり、関係各所には大変ご迷惑をおかけしました。重ねてお詫び致します。

いくつかの機能障害が引き続き発生しておりますが、内容によって優先順位をつけ、順次解決しております。今後は、更新により付加された新たな機能も実現できるよう、整備していく予定です。

図書館機構では、図書館システムをより快適に改善していく所存ですので、ご利用の皆様からのご意見、ご指摘、ご要望等をお寄せいただきますようお願いいたします。

## 教員著作寄贈図書一覧

(平成18年9月～平成19年6月)

所 属 等	寄贈者氏名	寄 贈 図 書 名	出 版 社	出版年
名 誉 教 授	糸川 嘉則	栄養補助食品(補完・代替医療)	金芳堂	2006
名 誉 教 授	加藤 邦男	ル・コルビュジエ事典 付:参考資料集	中央公論美術出版	2007
名 誉 教 授	吉川 榮和	発電工学	電気学会	2003
文 学 研 究 科	永 井 和	日中戦争から世界戦争へ	思文閣出版	2007
文 学 研 究 科	南川 高志	知と学びのヨーロッパ史:人文学・人文主義の歴史的展開	ミネルヴァ書房	2007
教育学研究科	川崎 良孝	高齢者への図書館サービスガイド:55歳以上図書館利用者へのプログラム作成とサービス	京都大学図書館情報学研究会	2006
教育学研究科	川崎 良孝	調査研究サービスの倫理と実際:上海図書館・科学技術研究所の経験	京都大学図書館情報学研究会	2006
教育学研究科	川崎 良孝	21世紀の図書館:世界のなかの中国の図書館	京都大学図書館情報学研究会	2007
経済学研究科	若林 直樹	はじめて経営学を学ぶ	ナカニシヤ出版	2005
経済学研究科	若林 直樹	希望立国、ニッポン15の突破口	日本評論社	2006
理 学 研 究 科	小山 勝二	量子の世界 (学術選書 019)	京都大学学術出版会	2006
工 学 研 究 科	竹 脇 出	Critical excitation methods in earthquake engineering	Elsevier	2007
人間・環境学研究科	河 崎 靖	ドイツ語学への誘い:ドイツ語の時間的・空間的拡がり	現代書館	2007
人間・環境学研究科	富田 恭彦	The lost paradigm of the theory of ideas (Philosophische Texte und Studien Bd.87.)	Georg Olms	2007
人文科学研究所	石川 禎浩	初期コモンテルンと東アジア	不二出版	2007
人文科学研究所	籠谷 直人	膨張する帝国拡散する帝国:第二次大戦に向かう日英とアジア	東京大学出版会	2007
人文科学研究所	小 関 隆	プリムローズ・リーグの時代:世紀転換期イギリスの保守主義	岩波書店	2006
人文科学研究所	田中 雅一	ミクロ人類学の実践:エイジェンシー/ネットワーク/身体	世界思想社	2006
人文科学研究所	富 谷 至	江陵張家山二四七號墓出土漢律令の研究 論考篇,譯注篇	朋友書店	2006
エネルギー理工学研究所	鈴木 義和	MOTで読むファインセラミックス技術戦略	日刊工業新聞社	2004

この一覧は寄贈者著作のみの掲載となっております。上記以外にも多くの図書を附属図書館や部局図書室にいただきました。今後とも蔵書充実のためご寄贈いただきたくよろしくお願ひいたします。



## よくある質問と回答(FAQ)

### 第4回

#### 利用編

##### Q. 1. 閲覧室での飲食禁止の徹底とゴミ箱の撤去を検討して欲しい。

A. 1. 閲覧席での飲食が少なくなく、特に土日祝日に多いようです。以前は平日に限って、職員が巡回して、食べ物の持込や閲覧席での飲食を注意していました。しかし、職員の負荷が大きいことに比べ、その場での効果しかないことから、現在は実施していません。

利用者ひとりひとりに館内でのマナーについて自覚してもらうよう館内放送による注意喚起や館内掲示の場所や内容に関して、改善の余地がないかを見直します。また、職員が閲覧席の様子に留意して、飲食に対して注意します。

ゴミ箱の撤去や削減については、これまでも検討してはいましたが、ゴミが館内に放置される等のリスクを考え、実行には至っておりませんでした。その後実態を調査検討の結果、ゴミ箱の削減を実施しております。

##### Q. 2. 入口付近での禁煙を徹底して欲しい。

A. 2. 入口付近での喫煙については、プレートによる禁煙表示だけでなく、受付担当者が見つけ次第、注意するようにしています。ただし、担当者が利用者との対応中であったり、他の業務に手を取られて気が付かない場合があります。そのような場合は、お知らせくだされば、注意致しますので、ご協力よろしくお願いします。

##### Q. 3. 携帯電話での通話と声高な私語を取り締まって欲しい。

A. 3. 職員が一定期間午前1回、午後2回巡回を行いました。携帯電話による通話の現場に何度か遭遇しました。その都度、他の利用者

への迷惑になるので、館内での携帯電話による通話はしないよう注意しました。どの通話者も注意を受けると、通話をやめたので、館内での通話がいけないことであるという意識は持っているようです。

携帯電話による通話禁止および「静粛」を呼びかける掲示をして利用者の注意喚起に努め、併せて図書館職員が注意を怠らず、快適な学習・研究環境の保全に努力します。

##### Q. 4. 書籍への書き込み防止策を徹底して欲しい。

A. 4. 図書館資料への書き込みについては、当館でも地道な消しゴムによる消去作業をする一方で、新入生や留学生を対象にしたガイダンスで、資料を大切に扱うよう呼びかけてきました。ご指摘を参考に、日常的に館内における掲示や広報物でも呼びかけるよう注意喚起を強化します。

##### Q. 5. 附属図書館の利用者用コピー機を増設して欲しい。

A. 5. 利用者用コピー機は生協に設置・管理を委託しています。コピー機を増設に関しては生協に検討を依頼し、1台増設の方向で機種選定中です。今暫くお待ちください。

##### Q. 6. 全学部の試験終了までは附属図書館を休館しないで欲しい。

A. 6. アカデミックカレンダーに記載の試験期間以降も試験を実施している学部がありましたので、今年の8月は8日に変更いたしました。今後、試験期にあたる8月と2月は全学部の試験終了日以降で、両月の中旬毎年実施している全館清掃日の前日に休館いたします。

## 平成18年度蔵書統計

(平成19年3月31日現在)

部 局	増加冊数			平成18年度末蔵書冊数			入力冊数累計		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書	洋書	計
附 属 図 書 館	10,807	2,270	13,077	605,905	275,866	881,771	343,894	97,958	441,852
附属図書館宇治分館	516	1,047	1,563	10,185	57,180	67,365	11,784	26,402	38,186
文学研究科・文学部	13,525	7,027	20,552	570,708	382,747	953,455	294,971	276,459	571,430
教育学研究科・教育学部	1,738	764	2,502	85,120	65,063	150,183	62,094	40,970	103,064
法学研究科・法学部	4,790	4,000	8,790	281,743	369,179	650,922	133,795	97,115	230,910
経済学研究科・経済学部	5,216	2,024	7,240	253,380	236,423	489,803	177,193	135,685	312,878
理学研究科・理学部	1,463	2,216	3,596	45,649	190,926	236,575	30,855	98,826	129,681
医学研究科・医学部	1,132	599	1,731	51,014	140,379	191,393	36,347	25,833	62,180
薬学研究科・薬学部	117	302	419	10,834	32,764	43,598	4,480	5,853	10,333
工学研究科・工学部	1,780	2,235	3,965	121,986	189,795	311,781	90,003	62,625	152,628
農学研究科・農学部	1,305	1,584	2,889	157,347	133,327	290,674	64,703	28,042	92,745
人間・環境学研究科・総合人間学部	7,609	2,004	9,613	359,348	295,201	654,549	189,944	130,759	320,703
エネルギー科学研究科	190	112	302	4,599	6,039	10,638	4,144	2,984	7,128
アジア・アフリカ地域研究研究科	338	197	535	12,101	73,477	85,578	10,338	82,178	92,516
情 報 学 研 究 科	411	445	856	14,560	55,199	69,759	12,386	30,073	42,459
生命科学研究科	0	0	0	56	58	114	0	0	0
地 球 環 境 学 堂	249	273	522	584	628	1,212	616	367	983
公 共 政 策 大 学 院	212	58	270	265	58	323	0	0	0
経 営 管 理 大 学 院	409	51	460	723	80	803	0	0	0
人 文 科 学 研 究 所	5,196	1,175	6,371	468,882	80,443	549,325	136,282	44,090	180,372
再生医科学研究所	0	3	3	844	4,558	5,402	85	119	204
ウィルス研究所	4	48	52	332	7,115	7,447	88	1,152	1,240
基礎物理学研究所	343	1,209	1,552	8,497	73,576	82,073	6,827	38,305	45,132
経 済 研 究 所	113	454	567	40,323	36,507	76,830	28,637	27,365	56,002
原 子 炉 実 験 所	749	590	1,339	13,730	34,613	48,343	12,524	10,121	22,645
数 理 解 析 研 究 所	109	1,988	2,097	6,650	75,039	81,689	6,492	48,845	55,337
霊 長 類 研 究 所	92	332	424	7,219	16,239	23,458	5,059	5,047	10,106
東南アジア研究所	510	3,503	4,013	25,823	132,600	158,423	18,346	76,529	94,875
放射線生物研究センター	28	7	35	68	46	114	68	16	84
環境保全センター	2	40	42	620	1,314	1,934	252	1,294	1,546
国際交流センター	0	0	0	5	0	5	0	0	0
高等教育研究開発推進センター	9	2	11	2,462	998	3,460	20	14	34
国際融合創造センター	194	9	203	276	16	292	8	0	8
放射線生物研究センター	1	91	92	434	1,974	2,408	219	130	349
生態学研究センター	89	83	172	8,488	5,636	14,124	8,687	5,901	14,588
地域研究統合情報センター	0	0	0	0	40,353	40,353	1	4	5
学術情報メディアセンター	43	18	61	5,879	12,662	18,541	5,332	7,797	13,129
福井謙一記念研究センター	0	0	0	22	5	27	0	0	0
大 学 文 書 館	0	0	0	696	0	696	691	0	691
医療技術短期大学部	420	61	481	18,859	3,825	22,684	6,544	723	7,267
そ の 他	0	0	0	162	99	261	0	0	0
合 計	59,709	36,821	96,530	3,196,378	3,032,007	6,228,385	1,703,709	1,409,581	3,113,290

(注1) 附属図書館宇治分館は、化学研究所、エネルギー理工学研究所、防災研究所、生存圏研究所、生存基盤科学研究ユニット等の蔵書数を含めた数

(注2) 入力冊数には、資産図書以外も一部含まれる

## 附属図書館利用統計（平成18年度）

### 入館利用状況

#### 1. 年間入館者総数

内 訳 846,902人 昨年比 +9.9%

学 内	入 館 機	831,268
	マニュアル*	5,131
学 外	閱 覧**	9,384
	見 学	1,119(人)

\* マニュアル：忘れたり、紛失等による利用証不携帯の入館者

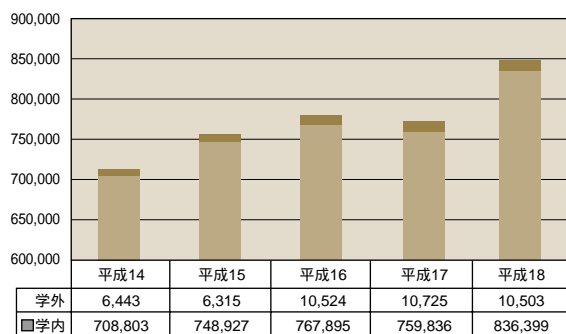
\*\* 閲覧：学外者の特別閲覧願手続きによる入館者

入館機による入館者 831,268人について

開館日	1日当たり	2,459	昨年比	+3.2%
平 日	1日当たり	3,113	昨年比	+5.0%
土・日曜日	1日当たり	1,029	昨年比	+12.3%
1日の最多入館者数*		5,799(人)		

\*平成18年7月19日

#### 2. 入館者総数5年間推移



### 資料利用状況

#### 1. 普通図書貸出利用状況

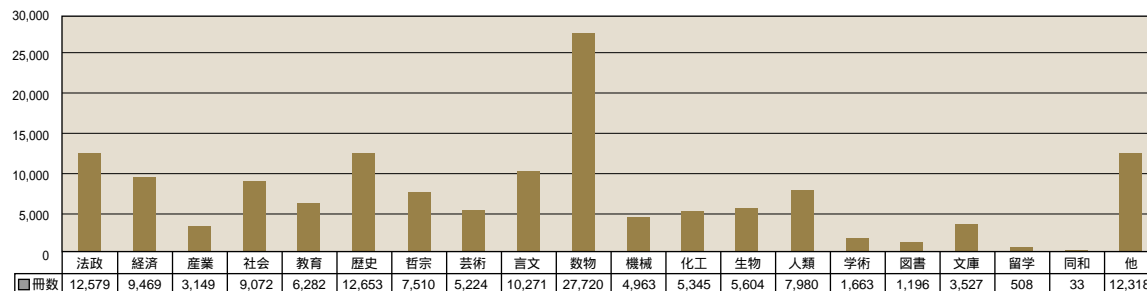
年間利用冊数 152,790冊 昨年比 +4.5%

年間利用人数 81,913人 昨年比 +5.5%

#### 2. 学内者への貸出

	平成18年度	平成17年度
年間貸出冊数	147,066冊	141,255冊
年間貸出人数	78,960人	75,783人
1日平均貸出冊数	435冊	446冊
1人当たり貸出冊数	1.9冊	1.9冊
年間貸出冊数最高日	10月10日(1,098冊)	1月12日(1,053冊)

#### 3. 分類別貸出状況



### 利用対象者数

#### 1. 登録者総数

35,225人 (平成19年5月1日現在)

内 訳

教 員	3,284人
院 生	9,885人
学 生	13,339人
職 員	2,779人
そ の 他	5,938人

教員には非常勤講師、共同研究者等を含む。

院生には大学院聴講生、研修員等を含む。

学生には学部聴講生等を含む。

職員には非常勤職員を含む。

その他には卒業生その他を含む。

#### 2. 利用証発行枚数

2,548枚

内 訳

新規交付	2,537枚
再 交 付	11枚

(うち放送大学生は747枚)

(再交付とは、紛失・有効期限切れ・転部・改姓等をいう)

#### 4. 貴重書利用状況

貴重書(特殊文庫)閲覧上位リスト

1	菊 亭 文 庫	281冊
2	河 合 文 庫	185冊
3	富 士 川 文 庫	108冊
4	和 貴 重 書	86冊
5	谷 村 文 庫	56冊

## 参考業務

### 文献調査＜国内＞

#### 1. 受付件数

		平成18年度(件)	平成17年度(件)
内 容	所蔵調査	5,110	5,165
	事項調査	709	1,077
	その他	4,037	3,830
	合 計	9,856	10,072
形 式	FAX(文書を含む)	982	1,316
	電 話	3,425	5,720
	カウンター	5,449	3,036
	合 計	9,856	10,072

#### 2. 依頼件数

		平成18年度(件)	平成17年度(件)
内 容	所蔵調査	128	165
	事項調査	39	82
	合 計	167	247
形 式	FAX(文書を含む)	167	247

#### 3. 受付・依頼件数合計における学内者・学外者別利用件数

		平成18年度(件)	平成17年度(件)
学 内 者		5,681	5,240
学 外 者		4,342	5,079
合 計		10,023	10,319

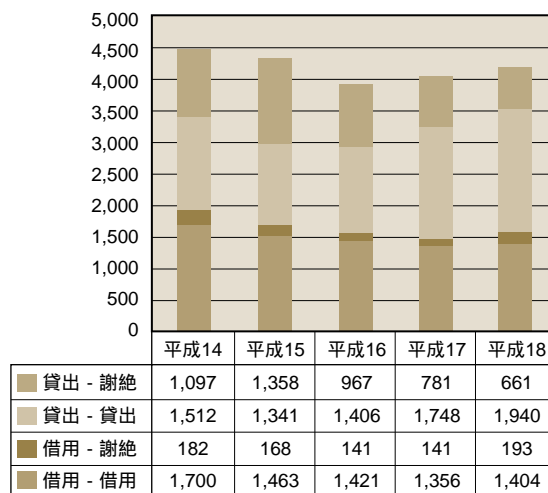
## 相互利用

#### 1. 他大学図書館利用紹介状発行

	平成18年度(件)	平成17年度(件)
発 行 件 数	749	997

#### 2. 現物貸借

現物貸借5年間推移



#### 4. FAX・文書による受付・依頼の機関別件数

(平成18年度)

機 関 名	受付件数(件)	依頼件数(件)
学 内	7	40
国 立 大 学	179	42
公 立 大 学	99	4
私 立 大 学	380	55
国立共同利用機関	14	2
公 共 図 書 館 等	33	12
非 営 利 団 体	15	10
一 般 企 業	15	1
個 人	240	0
国立国会図書館	0	1
合 計	982	167

### ＜国外＞

#### 受付件数

平成18年度	平成17年度
15 件	9 件

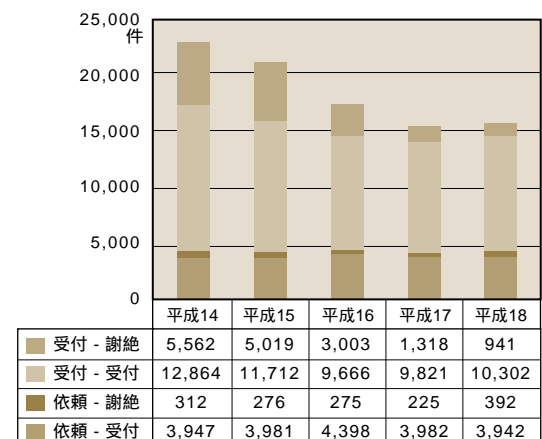
#### 3. 文献複写

	平成18年度(件)	平成17年度(件)
依 頼	5,652	5,517
受 付	12,024	12,664
合 計	17,676	18,181

#### 内 訳

	国 外	国 内	学 内	合 計
依 頼	200	4,334	1,118	5,652
受 付	221	11,243	560	12,024
合 計	421	15,577	1,678	17,676

文献複写(国内)5年間推移



## 図書館の動き

### 平成19年

4月 9日	附属図書館新入生オリエンテーション、留学生オリエンテーション(～12日)	28日	図書館システム運用協議会(第1回)
17日	学術情報リポジトリ検討委員会(第5回)	31日	京都大学図書館協議会(平成19年度第2回)
20日	京都大学図書館協議会(平成19年度第1回)	6月12日	京都大学図書館協議会第二特別委員会(図書館サービスⅠ 平成19年度第1回)
24日	平成18年度国立大学図書館協会近畿地区総会	19日	附属図書館運営委員会(平成19年度第1回)
26日	図書系連絡会議	20日	大学図書館近畿イニシアティブ運営委員(第1回Ⅰ関学大)
5月 8日	平成19年度図書系職員初任者研修(～9日)	21日	図書系連絡会議
9日	京都大学図書館協議会幹事会(平成19年度第1回)	26日	附属図書館研究開発室会議(平成19年度第1回)
9日	京都大学図書館協議会第一特別委員会(情報資源Ⅰ 平成19年度第1回)	27日	NII目録システム地域講習会(～29日)
15日	UniBioPress セミナー(京大)	28日	第54回国立大学図書館協会総会(九州大)
	外国雑誌センター館会議(東京大)	7月 4日	セキュリティ講習会
15日	京都大学図書館協議会認証システム監理特別委員会(平成19年度第1回)		個人情報保護に関する講習会
23日	京都大学図書館協議会第一特別委員会(情報資源Ⅰ 平成19年度第2回)	9日	図書館システム運用協議会(第1回)
24日	図書系連絡会議	27日	図書系連絡会議
25日	京都大学図書館協議会幹事会(平成19年度第2回)	27日	国公私立大学図書館協力委員会(阪市大)
		8月 3日	閲覧系職員のための目録講習会
		9日	オープンキャンパス2007・図書館開放(～10日)

## 目次

学術情報基盤としての電子情報ジャーナルの安定的提供に向けて・・・長坂 みどり・・・	1
京都大学図書館機構ミッションの策定 .....	5
二枚の絵<一冊の本シリーズ6> .....	6
学内デリバリー・サービス(現物貸借)がさらに便利になりました! .....	8
人間・環境学研究科総合人間学部図書館の紹介 .....	9
「資料保存課」訪問調査 University of Kentucky Libraries in USA	
天野 絵里子・山田 裕子・山本 千恵・・・	11
図書館システム更新に伴う障害のお詫び .....	14
教官著作寄贈図書一覧 .....	15
よくある質問と回答(FAQ)第4回 .....	16
平成18年度蔵書統計(平成19年3月31日現在) .....	17
附属図書館利用統計(平成18年度) .....	18
図書館の動き .....	20

### 編集後記

Vol.43, No.1で特集を組み、皆様にコンテンツの登録を呼びかけた「京都大学学術情報リポジトリ」に、我が「静脩」も初号(1964年)から全記事を登録しており、京大の歴史を語る先生方からの記事も並んでいます。つれづれにお目通しください。(e)